

広報



関市イメージキャラクター
「関＊はもみん」

ときめき きらめき いきいきを伝える

Seki

せき

2013

6/1

No.1628



特集

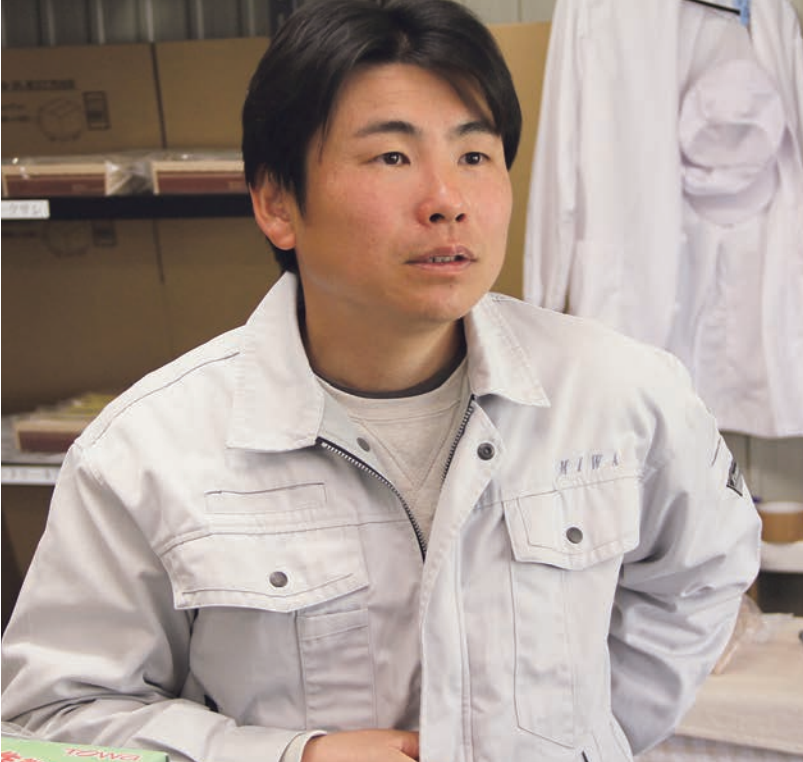
若き農業者を応援します!……P2

TOPICS

第4次総合計画後期基本計画…P6
成人学校講座受講生募集…P10
土砂災害に備えましょう…P16
国民健康保険税の税率変更…P18

お知らせ…P24
健康情報…P34
文化会館・図書館…P35

片岡三紀さん・ピニールハウス（東田原）



Young farmers support project

地域の農業は、わたしたちに新鮮で安全・安心な農産物を供給してくれます。しかし近年、市内でも農業従事者が減少し、高齢化が進んでいます。

一方で農業に魅力を感じて、さまざまなスタイルで新たに農業を始める人もいます。市の活力ある農業・農村を実現するためにも、産地を盛り上げる若手新規就農者の存在が重要です。

今回、これからの関市の農業を担って、輝く若手新規就農者3人を紹介します。市は、農業経営者や多様な担い手を育成し、さまざまな形で農業に携わる人を応援しています。

【照会先】 農務課 ☎23-6761



若き農業者

「おいしいと
言ってもらえる
喜び」

片岡三紀さん

東

田原地区のビニールハウスで、イチゴ「濃姫」の土耕栽培に取り組み片岡三紀さん(23歳・塔ノ洞)。

就農2年目。実家が農家で、水稲、小麦など作る両親の仕事を見て育ちました。土を触ったりなど、自然とふれあうことが好きだったため「自分もこういう仕事がしたい」と思い、岐阜県農業技術大学校に入學して、イチゴを専攻。2年間、農業の基礎や栽培管理を勉強し、卒業後、本巣市のイチゴ農家で1年間修業しました。日々の実務作業の中で、技術を習得して自信をつけたといいます。

現

在、5棟20アールの管理に追われながらも、本人と「将来の旦那さん」の2人で、楽しく充実した栽培管理に努めています。行き届きがないようにと、少なめに苗を定植しています

が、今後はもっと収量を増やしていく予定とのこと。就農



後しばらくは、アルバイトで生計を立てていたといい「もう少し稼げるようになる」と嬉しいですね」と話します。生活を支える収入が得られるようになるのが目標です。

苦労は、収量を増やすことと病害虫防除の対策。病気(炭素病など)の処理はとても大変で、風通しや日当たりなど、ハウス内の環境を整えることが最も気を使うところです。

もう一つの苦労は「早起きがつらい」と。12月初旬〜4月現在は、収穫時期にあたり、実が冷たいうちにもぎる「朝摘み」を基本としており、午前5時には起床し作業にあたります。昼までに出荷できるよう、ハウスや実家などで梱包しての作業を繰り返します。イチゴはJ・Aめぐみのや中濃イチゴ生産組合を通じて市場などに出荷しています。

こ

だわりは、土耕による促成栽培。土に触れ、恵まれた自然の中で育まれたイチゴは、濃厚な味わいになるはずと、高設栽培より土耕栽培を選びました。「これ(土耕)の方が絶対においしい」と自信を持っています。

就農し「私が作ったイチゴを食べてもらって、おいしいと言ってもらえることが一番嬉しい」と、農業にやりがいを感じています。就農の夢がかなったことに喜びを感じ

若き農業者を 応援します!



じつつ、今後も収量を増やし、イチゴ狩りの受け入れもしていきたいと、将来の目標に向かって意欲を燃やしています。

就

農の際に利用した青年就農給付金の制度は「とてもありがたかった」と話した上で「もっと就農しやすい環境が整うといいですね」と期待しています。新規で就農を希望する人に対して「土地探しなどにも苦勞するので、若いうちに始めた方がいいですよ。若い仲間が増えてほしいなあ」と、同世代の参入を呼びかけました。

若き農業者

「関市の
ブランド商品を
作り上げたい」
三輪忠士さん

千

足地区内で、農業生産法人PLUS(プラス)株式会社を営んでいる三輪忠士さん(36歳・千足)。

就農して1年、岐阜の代表品種米「ハツシモ」を使った米粉を製造・販売しています。その他に作業受託や耕作放棄地、遊休農地





Young farmers support project

を利用した作付の取り組みも行っています。また、環境ネットせきを通した活動を行うことにより農食環の一体化を進めています。

現

在、千足地区内外で7.5ヘクタールの水稲を管理し、米粉用、主食用でお米を作っています。種をまき、苗作りから始まり、田植え、稲刈り、乾燥、製粉、加工、袋詰めまでの工程を一貫して行うため、混じり気のない100%のハツシモ米です。米粉には、くず米やブレンド米を使うものも多くある中、三輪さんが作る米粉は、ごはんとしておいしく食べられるハツシモ米だけを使っています。

食品製造のビジネスを考えていた三輪さんは、お米のみの販売だけでなく、付加価値をつけたいと「米粉」に着目。独学で研究し、試行錯誤の上、配合などを決めました。知人などに試食を繰り返しもらいながら、現在の商品を作成。商談会などでアピールし、少しずつ契約もとれるようになってきました。

米

粉の商品は、米粉パウンドケーキ、ケーキミックス、パンミックスのほか「米粉の黒からあげ粉」があります。市民有志で立ち上がった「関からあ

げ学会」に三輪さんも加盟し、ひじきや市特産したけを使った「黒からあげ粉」とコラボして商品を作りました。市のPRに一役買いたいと、今後も5色セットのからあげ粉を開発し、土産品としたいと考えています。

また、米粉での乾麺（パスタ）の開発にも取り組んでおり、将来的には海外にも輸出したいと考えています。

こ

うした三輪さんの開発にかける情熱には、小麦アレルギーで小麦を使ったお菓子や料理が食べられない人にも食べてもらうことができることと、関市からブランド商品を作り上げたいという確固たる思いがあるからです。

三輪さんは、昨年10月に農林水産省の総合化事業計画の認定を受けられました。市内のキウイ、ブルーベリー、ゆず、つるむらさきなどの生産・加工業者と手を組み、同年に関市農食生産組合を設立。将来は農食連携の複合施設を建設して、市の6次産業化ネットワークの構築を目指す計画です。「米粉にして加工することで、可能性が広がった。農業と食、6次産業に魅力を感じている。軌道に乗れば雇用の拡大や若い世代も集まり、楽しくできるのでは」と期待しています。

今

後、施設の建設はもとより、海外販路の取得のために新しい食品衛生管理手法の認証を目指すなど、国際基準に合わせ環境に配慮した農業経営を考えています。「地元の農産物の安全・安心のため、関市の価値も上がるはず」と夢を描いています。

若き農業者

「IT農業で、おいしいものができる達成感」
名古屋嘉春さん

上

之保地内のビニールハウスで、トマトとパプリカを計11.4アール栽培している名古屋嘉春さん（36歳・大平台）。

現在のハウスが完成し、就農して1年。結婚を機に、妻の実家の上之保で、義父の水稲を手伝っている間、「自分が食べるものを一から自分で作り上げる」農業のおもしろさを実感し、本格的に就農に取り組みました。「結婚するまでは、農業に全く興味がなかった」そうです。現在も続け





ているシステム開発会社の経営をする傍ら、農産物の栽培技術や農業経営の基礎知識を身に付けようと、JAめぐみの就農塾へ。郡上市の育苗ハウスでトマトとパプリカに出会い、魅力を感じて栽培を決意しました。

名

古路さんは、栽培方法にこだわりたいと、土耕と水耕の中間にあたる「ポット耕」を選択。細かい網目のポット（入れ物）は通気性がよく、水もほどよく保つのが特長で、花や葉の出る方向を確認して、ポットを光の向きへ変える作業をしています。無駄がなく、管理しやすいのがメリットです。

昨年は、単収でトマト6トン、パプリカ4トン进行収穫。将来はこの1.5〜2倍が目標です。現在、市内外へ出荷し、レストランなどにも契約農家として卸すこともしています。露地栽培より1カ月早い6月中旬〜10月ごろの収穫期以外には片付けや育苗作業にあたり、生計を立てるために冬期間の別品種の栽培を考えることも。「半年間の収穫で1年分が成り立つ経営をしたい」と話します。

ま

た、名古路さんはシステム開発の技術を生かして、水や液肥を与える時間をパソコンで管理。ハウス内に

管路をめぐらせ、自動で与えられるようになっていきます。また、盗難防止と生育状況確認のため、カメラで撮影してスマートフォンなどで常に確認できるようにしています。今後はこの知識を元に、通気の二元管理のほか、お客さんが店頭などで生育状況をウェブ上で確認できるようにしくみ作りを考え、誰でもできる「IT農業」を目指しています。

収

穫期は、午前5時に起床し作業。トマトは、品種「桃太郎8」で食味に優れているといわれ「最高の品種。これ以上おいしいものはない」と、絶対の自信を持っています。パプリカは、赤、黄色鮮やかで、さわやかな甘みがあり、その糖度はトマトより高いそうです。「まだまだ試行錯誤の段階」と、栽培方法とその調理方法についても研究を重ねています。

農業の魅力は「手間をかけ、おいしいものを作り上げた達成感」と笑顔で話します。今後は、トマト狩りの農業体験やオーナー制度なども始めたいとのこと。「農業って楽しいと感じてもらいたいですね」と意気込みを話しました。



◎就農を考えている あなたのために

農業を始めたいと考えながらも「技術の習得」「所得の確保」などに不安を抱えている方も多いと思います。そうした新規就農に関する悩みを解消し、安心して農業が始められるよう、就農の準備段階から経営を開始した後の初期段階まで、農業を始める若い皆さんを応援する制度があります。

▽青年就農給付金（準備型）

▽青年就農給付金（経営開始型）

◆照会先 農務課 ☎23—6761

また岐阜県は、就農を考えている皆さんのために、役立つ情報の提供などを紹介するウェブサイト「ぎふ就農ナビ」を開設しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/gifusynonavi/>

◆照会先 県農業経営課 ☎058—272—8433

JAめぐみのも、新規に就農する皆さんを応援する取り組みに力を入れています。

▽JAめぐみの就農塾

▽JAめぐみの実証ほ場

◆照会先 JAめぐみの本店営農課 ☎23—5885

関市第4次総合計画後期基本計画

5月号に続き6月号では、推進イメージと各分野における重点取り組みを紹介します。

◆照会先 企画政策課 ☎23—7014

5 後期基本計画の推進イメージ



6 後期基本計画の重点的取り組み

政策1 みんなで手を取りあい、いきいき暮らせるまち

1	人権	○人権問題の解決に向け、世代やライフスタイルに応じた効果的な啓発や学習機会の提供を行います。 ○男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画プランの見直しや、男女共同参画推進条例の制定などを推進します。
2	健康・医療	○特定健診や人間ドック、各種健診の受診率や特定保健指導の実施率を高め、日ごろの健康管理や疾病の早期発見・早期治療につなげます。 ○健康づくりにつながる運動やスポーツ活動を促進します。 ○国民健康保険の財源を安定的に確保し、持続可能な制度として運営します。
3	地域福祉	○地域での交流や支え合い活動などを促進し、「関市災害時要援護者支援計画」に基づく要援護者リストの作成や個別避難計画の作成を推進します。 ○就労可能な生活困窮者について、自立を目的とした就労を支援します。

4	子育て	○病児保育や地域住民との連携のもとでの留守家庭児童教室など、子育て支援サービスの充実を推進します。 ○障がいのある子どもやその保護者への支援の充実に向け、西部地域の拠点となる児童発達支援センターを整備します。
5	高齢者	○「介護保険事業計画」に基づき、施設・居住系サービスの提供体制を整備します。 ○高齢者がいきいきと活動できるよう、就労支援や、ボランティア・地域活動などへの参加促進に取り組みます。
6	障がい者	○障がいのある人の自立や社会参加を支援する各種サービスの提供体制の整備や、障がいのある人の権利を守る取り組みを推進します。
7	公的年金	○国の制度の動向を注視しつつ、年金制度の重要性を啓発します。
8	コミュニティ	○自立した地域づくりをより一層促進するため、地域委員会の設置を推進します。 ○地域活動の拠点となる公民センターや地域集会場を、地域の主体性に基づき管理・運営できる仕組みづくりを推進します。 ○外国人住民と市民との交流機会の充実により、多文化共生社会の実現を目指します。

政策2 行きかい、ふれあい、つながりが生まれるまち

1	道路	○広域交通網の充実に向け、高速道路や国道などの整備を継続して国、県に要望します。 ○西本郷一ツ山線などをはじめとする、市内の道路整備を推進します。 ○災害時でも安全に使用できるよう、橋梁などの耐震化や長寿命化を推進します。
2	公共交通	○交通の結節点として関駅西口駅前広場整備事業を推進します。
3	情報通信	○ＩＣＴ（情報通信技術）の高度化や、ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの新たな情報媒体の活用により情報発信を充実します。
4	地域振興	○地域振興予算により、地域の課題や特性に応じた振興策を推進します。 ○農山村地域などの魅力を発信し、交流人口の増加を図るため、グリーンツーリズムを推進します。

政策3 伝統のわざと新しい技術が織りなす力強い産業のまち

1	伝統産業 新産業	○地場産業である刃物産業の振興を推進します。 ○企業進出への優遇措置を活用し、優良企業の誘致を推進します。
2	労働力	○市内の労働力を確保するため、地元企業への就労を促進します。
3	商業・消費	○イベントの実施や空き店舗の活用などにより、魅力ある商店街づくりを促進します。 ○商業担当部門と福祉担当部門との連携を強化しながら、高齢者などを狙った消費者被害を防止します。
4	農業	○「人・農地プラン（地域農業マスタープラン）」を策定し、国の支援を活用しながら地域農業の振興を図ります。 ○地元農畜産物を活用した6次産業化を推進し、新たなビジネスを創出します。 ○農業用施設（頭首工、揚水機、用排水路など）の整備や鳥獣害対策の推進により、農産物の生産性の向上を図ります。
5	林業	○森林の有効活用につなげるための間伐事業を推進します。 ○林業に関わる活動団体などへの支援を通じ、林業の担い手を育成します。
6	観光	○特産品やご当地グルメなどの新たな観光資源の創出と既存資源の磨き上げにより、関連産業の振興を図ります。 ○ＳＮＳを積極的に活用して本市の情報を発信します。 ○「刃物のまち関市」としての魅力を高めるため、刃物ミュージアム回廊修景整備事業を推進します。

政策4 人と地球が共生できる安全・安心で快適なまち

1	環境・美化	○クリーンなエネルギーとして、太陽光発電や水路などを活用した小水力発電およびバイオマスエネルギーの活用を推進します。 ○「関市環境基本計画」に基づき、総合的な環境保護活動を推進します。 ○現行の廃棄物処理制度の見直しを行い、ごみの排出抑制やリサイクルを推進します。
2	都市計画・ 土地利用	○笠屋地区や平賀地区における土地区画整理事業を計画的に推進します。

3	景観・緑化公園	○「関市景観計画」と「関市景観条例」に基づき、地域固有の景観を継承します。 ○誰もが気軽に、快適に利用できる公園の整備を推進します。
4	住宅・宅地	○災害に強いまちづくりに向け、民間木造住宅の耐震診断の実施や耐震化のための改修を促進します。
5	斎場・墓地	○市民ニーズに対応するため、墓地公園の新たな区画の整備を推進します。
6	水道	○安定的な水の供給のため、送・配水管の老朽管の更新と耐震化を推進します。
7	下水道	○「公共下水道施設の長寿命化計画（管路・処理場）」を策定するとともに、施設の改修を推進します。
8	防災・防犯	○地域の防火・防災力を高めるため、消防施設の充実と消防団の組織強化を支援します。
9	交通安全	○児童生徒の通学路などを中心に交通安全施設の整備を推進します。
10	治山・治水	○市が管理する河川や排水路の整備を図ります。 ○急傾斜地や砂防河川の整備を図ります。

政策5 郷土を誇りに思い、豊かな心と志を持つ市民が育つまち

1	生涯学習	○「生涯学習まちづくり計画」を見直し、本市の生涯学習の方向性を明確にします。 ○大人の学び舎プログラムなどを推進し、身近な地域課題の解決に自身の知識、技術、経験を役立てる「地域づくり型生涯学習」を推進します。
2	社会教育	○乳幼児期家庭教育学級の実施やさまざまな啓発、学習機会の提供などを通じて家庭教育を推進します。
3	スポーツ	○市民健康ウォーキングなど、「市民ひとり1スポーツ」を奨励します。
4	図書館	○幼少期に読書習慣を身につけるため、発達段階に応じて働きかけます。
5	青少年	○地域資源を有効に活用し、青少年が自然とふれあうことができる体験機会を充実します。
6	学校教育	○「地域の自然や文化」「生き方」「専門性」などについて学ぶ「関市版 寺子屋」の設置により、児童生徒への郷土教育やキャリア教育の機会を充実します。 ○各学校において、読書活動や基礎学力向上に向けた「読み・書き・そろばん」などの取り組みを推進します。 ○児童生徒が安全に学べる環境となるよう、学校施設の耐震化や設備などの改修を推進します。
7	文化文化財	○文化財の保護、継承を推進するとともに、文化財や文化施設間の連携を図ります。

政策6 改革と協働 行政目線から市民目線、管理から経営への転換

1	行財政改革	○行政評価を適切に行い、総合計画を推進するとともに、計画的な財政運営を行います。 ○行政改革大綱に基づき、組織や制度の見直しと改善を推進します。 ○公共施設の必要性を精査し、適正な配置と効率的な管理運営を推進します。 ○行政機関や民間企業との人事交流を通じ、職員の人材育成を推進します。
2	協働	○市民参画のもとで「自治基本条例」を制定します。 ○まちづくりの施策を市民が主体的に考える「市民会議」を運営します。 ○自立した地域づくりをより一層促進するため、地域委員会の設置を推進します。 ※『コミュニティ』分野の重点的取り組みを再掲
3	都市間交流 広域行政	○伝統産業や伝統文化の継承と振興など、特に効果が期待される分野において、関連する市町村との連携を強化します。

後期基本計画は、ホームページで公開していますが、企画政策課窓口をはじめ、市役所1階案内、各地域事務所、西部支所、関市立図書館カウンターなどでも閲覧できます。

市民の皆さまへ

関市職員の不祥事に対するお詫び

この度、本市職員（水道部水道課在籍時）が収賄容疑で逮捕されるという事実が発生いたしました。

市民の皆さま方に多大なるご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

昨今、公務員倫理の確立が強く求められている中、本市におきましても綱紀粛正の徹底を図ってまいりました。にもかかわらず、このような容疑で逮捕されたということは痛恨の極みであります。また、この事実により私自身大変な衝撃を受けておりますとともに、市民の皆さまの市政に対する信頼を、著しく失墜させる事態となりましたことに、深くお詫び申し上げます。

市では、これに関した情報が寄せられて以降、独自の調査をする中で、警察が捜査をしているとの情報を入手したため、警察の捜査に可能な限り協力をしてまいりました。

市といたしましては、今後とも警察の捜査に全面的に協力していくとともに、捜査の進展の中で内容の詳細な把握に努め、厳正な対応を行ってまいります。

この「職員逮捕という事実」を重くそして厳粛に受け止め、このような不祥事が二度と起こらないように、一層の綱紀粛正の徹底を図るとともに、再発の防止に努めてまいります。

私をはじめ職員一同、いま一度公務員としての基本に立ち返り、職務を誠心誠意遂行することで、一日も早い市政に対する信頼の回復を図ってまいります。

平成25年5月17日

関市長 尾関 健治